

イラストレイテッド・ロンドン・ニュース・オンライン版

The Illustrated London News Historical Archive 1842-2003 その4

センゲージラーニング株式会社

The Illustrated London News Historical Archive 1842-2003 は世界初の挿絵入り週刊新聞イラストレイテッド・ロンドン・ニュースの、1842年の創刊から2003年の終刊までの全ページをウェブ上で提供するデータベースです。紙面のすべての文章を検索することができ、またカラーページも忠実に再現されています。

最終回の今回は、特集号・補遺、コラム欄、訃報に焦点をあてて記事をご紹介します。

◆特集号・補遺◆

ILN は特集記事や補遺(サプリメント)が豊富なことが特徴の一つです。万国博覧会のような国際的なイベント、成婚、葬礼、在位周年記念のような王室の式典、ウェリントンのような国民的英雄やテニソンのような桂冠詩人の逝去などの出来事が起こった時には、その出来事を逐一報じるだけでなく、背景や歴史まで踏み込んで、多方面から掘り下げています。使われる挿絵や写真も多数に及びます。以下に列挙するのは、19世紀の特集や補遺の中の主要なものです。これ以外にも、年末恒例のクリスマス特集などがあります。

【万国博覧会】

- ✓ 「万国博覧会」(1851年4月26日、5月3日、5月10日、5月17日、5月24日、5月31日、6月7日、6月14日、6月21日、6月28日、7月5日、7月19日、7月26日、8月2日、8月9日、8月23日、9月6日、9月20日、10月4日、10月11日、10月25日、11月1日、11月8日、11月15日、1852年3月6日)
- ✓ 「クリスタル・パレスの進化」(1854年4月22日)
- ✓ 「万国博覧会」(1862年5月10日)

【王室】

- ✓ 「女王のシティ訪問」(1851年7月12日)
- ✓ 「女王のランカシャー訪問」(1851年10月18日)
- ✓ 「皇太子とデンマーク王女アレクサンドラの成婚」(1863年3月14日)
- ✓ 「コンノート殿下成婚」(1879年3月15日、3月22日)
- ✓ 「スコットランド高地の皇太子」(1880年10月16日)
- ✓ 「スコットランド高地の女王」(1880年10月23日)
- ✓ 「女王在位50周年」(1887年6月13日、6月25日、7月2日、7月9日)
- ✓ 「女王在位60周年」(1897年6月21日、6月26日、7月3日)
- ✓ 「女王の栄光ある治世」(1899年5月27日)
- ✓ 「ヴィクトリア女王薨去、大喪の礼」(1901年1月26日、1月30日、2月7日、2月9日)
- ✓ 「エドワード7世即位」(1901年2月2日)

【美術】

- ✓ 「木口木版の歴史」(1844年4月20日)
- ✓ 「王立芸術院展示会」(1849年5月26日)
- ✓ 「アルバート・ムーアの絵画:グラフトン美術館」(1894年2月3日)
- ✓ 「初期イタリア美術」(1894年3月24日)
- ✓ 「ベネチア派絵画」(1895年3月30日)
- ✓ 「スペイン絵画」(1896年2月22日)
- ✓ 「ジョン・エヴァレット・ミレイ」(1896年4月22日)

【建築】

- ✓ 「イングランドの大聖堂」(1895年2月23日、3月23日)
- ✓ 「イギリスの大聖堂と修道院」(1895年10月19日)
- ✓ 「イギリスの城の廃墟」(1895年11月9日、12月28日)
- ✓ 「ウェストミンスター寺院」(1897年11月20日)

【技術】

- ✓ 「オックスフォード、ウースター、ウォルヴァーハンプトン鉄道」(1852年5月8日)
- ✓ 「発明博覧会」(1885年8月8日)
- ✓ 「産業技術としての電気の最近の発展」(1888年4月7日)
- ✓ 「マンチェスター大型船運河の開通」(1894年5月26日)

【政治】

- ✓ 「ウェリントン公爵」(1852年9月18日、9月25日、11月20日、11月27日、12月11日)
- ✓ 「グラッドストーン氏の予算」(1853年4月23日)
- ✓ 「選挙」(1857年4月4日)
- ✓ 「グラッドストーン氏の公的生活と性格」(1880年4月24日)
- ✓ 「グラッドストーン」(1898年5月21日、6月4日)

【文学】

- ✓ 「ジョージ・スチーブenson生誕100年」(1881年6月4日)
- ✓ 「アルフレッド・テニソン」(1892年10月15日)
- ✓ 「エドワード・ギボン」(1894年11月17日)

【その他】

- ✓ 「イングランド・ウェールズ国勢調査」(1843年10月14日)
- ✓ 「バースとクリフトン」(1850年10月19日)
- ✓ 「労働感謝祭」(1851年3月22日)
- ✓ 「イギリスの歌とメロディー」(1851年12月6日、1852年1月24日、2月21日、3月27日、6月19日、1857年4月25日)
- ✓ 「運命、あるいは死の夢」(1852年1月31日)
- ✓ 「シティのギルド：ゴールドスミス・カンパニー」(1884年4月19日)
- ✓ 「オックスフォード・ケンブリッジ対抗ボートレース」(1892年4月9日)
- ✓ 「ILN創刊50周年」(1892年5月14日)

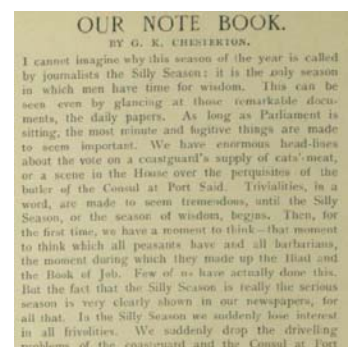
◆コラム欄◆

ILNはコラム欄も充実しています。時評、文化批評、ゴシップ記事、女性向けコラムなど、内容は多岐に亘ります。

✓ “Our Note Book”

「我々のノートブック」(1884年7月5日～1985年3月30日)

文化批評と時評を内容とするILNの看板コラム。当初匿名だったが、1888年以降署名記事に。約100年の間、担当したのはわずか4人。特に、三代目のチェスタトン(G.K. Chesterton)は31年間(1905-1936)、四代目のアーサー・ブライアント(Arthur Bryant)は49年間(1936-1985)に亘り、その死までコラムの執筆を続けた。



✓ “Town Talk and Table Talk”

→”Town and Table Talk on Literature, Art &c.

「巷談・雑談」(1850年3月16日～1860年4月7日)

ゴシップ・コラム。執筆者はアンガス・リーチ (Angus B. Reach)、ピーター・カニングガム (Peter Cunningham)。無署名の記事も。19世紀半ばに結成された画家・美術批評家のグループ、ラファエル前派 (Pre-Raphaelite Brotherhood) が頭文字”P.R.B.”で署名したことから、その素性をめぐって憶測が飛び交ったが、“P.R.B”がラファエル前派の略であることを初めて明らかにした 1850年5月4日の記事で有名。

Has any casual reader of art-criticisms ever been puzzled by the occurrence of three mysterious letters as denoting a new-fashioned school or style in painting lately come into vogue. The hieroglyphics in question are “P. R. B.,” and they are the initials of the words “Pre-Raphaelite Brotherhood.” To this league belong the ingenious gentlemen who profess themselves practitioners of “Early Christian Art,” and who—setting aside the Mediæval schools of Italy, the Raffaels, Guidos, and Titians, and all such small-beer daubers—devote their energies to the reproduction of saints squeezed out perfectly flat—as though the poor gentlemen had been martyred by being passed under a Baker’s Patent—their appearance being further improved by their limbs being stuck akimbo, so as to produce a most interesting series of angles and finely-developed elbows. A glance at some of the minor exhibitions now open will prove what really clever men have been bitten by this extraordinary art-whim, of utterly banishing and disclaiming perspective and everything like rotundity of form. It has been suggested that the globe-shape of the world must be very afflicting to the ingenious gentlemen in question. Sydney Smith said that Quakers would, if they could, have clothed all creation in grey. The “P. R. B.” would be bolder still, for they would beat it out flat, and make men and women like artfully-shaped and coloured pancakes.

A. B. R.

✓ “Echoes of the Week—Literary and Social”

「一週間のこだま」(1862年1月4日～1887年5月21日)

ゴシップ・コラム。匿名記事が多いが、執筆者はジョージ・オーガスタス・サラ (George Augustus Sala)ら。芸術家、歌手、俳優、作家、政治家、探検家、王族の有名人やマナー、流行、言葉などの話題にジャーナリストらしく切り込んだ。



✓ “The Ladies' Column”→”The Ladies' Page”

「淑女のためのコラム」(1886年3月6日～1918年9月7日)

その名の通り、女性に関心を持ちそうなテーマを扱ったコラム。19世紀後半から20世紀前半にかけて参政権を初めとする女性の権利拡大と解放に生涯を捧げたフローレンス・フェンウィック・ミラー (Florence Fenwick Miller) が32年間に亘って健筆を揮った。

THE LADIES' COLUMN.
I have the honour to make my obeisance to the lady readers of the ILLUSTRATED LONDON NEWS. I am to be permitted the privilege of treating, in this column, of matters specially interesting to ladies, as they arise in the great world week by week. The field is an extensive one. The traditional and time-honoured squaring of woman's sphere gave us Society, Dress, Domesticity, and Charity. To-day, leaving none of these aside, we find other segments in our circle; and Culture, Thought, and the Public Welfare all are now generally admitted to be portions of that mystic enclosure. So, though every topic will be touched here with a light hand, it is not proposed to make this column constantly a mere record of frivolity and fashion. Human nature cannot permanently live on the heights. But though we must usually be concerned about the daily round and common tasks of existence, I, for one, do not wish to forget that women are “beings breathing thoughtful breath.”

◆訃報◆

日刊紙と同様、ILNには訃報記事が掲載されましたが、他の新聞と異なるのは、肖像画を掲載した点です。



掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 電子商品営業部 (電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp) までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06f/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。